

# はじける こころ

みのお・教育じまん 南小学校の支援教育 —ともに学び ともに育つ教育—	……1
多文化共生教育 —ちがいを豊かさに—	……2
わが園の教育じまん なか幼稚園	……3
「トッキの会」「ライフタイムミント」	……4
エッセイ ジイちゃんが笑った	……5~6
みのお人権教育トピックス 豊かな人権学習	……7

**げんげの:**「げんげ(紫雪草)」とは、れんげ草のことで、「げんげの」は、れんげ草が一面に生い茂る野原のことです。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を一面に咲かせます。また、れんげ草は、緑肥として大地を肥やします。蓮に似た小さなれんげ草を、子ども一人ひとりの尊厳に見立てて、それが一面に花開く様子をイメージしました。



げんげののぺえじ **みのおから世界へ！人権文化の花束を！**

●写真募集！●  
子どもたちの笑顔、真剣な顔、輝く顔…などの写真をお送りください。

## 豊かな人権学習

### —保護者とともにつくる授業—

このコーナーでは、人権に関わる時事情報を取り上げています。

A: どの学校も人権学習が行われているけれど、事前  
にどんな準備をされているのかな？  
B: 以前、人権擁護委員さんが、「いじめ防止」の授  
業をするときに、学校と事前打合せをして、「ア  
ニメの登場人物と同じ名前の子がいるかどうか確  
かめたり、ビデオの内容について必要な説明をし  
たりする」とおっしゃっていたわ。  
C: そうね。障害に関わる教材を扱う時にも、学年や  
クラスに障害のある子どもがいれば、事前に本人  
や保護者の気持ちや思いをしっかりと受け止められ  
るか、そして、その上で「こういう教材を使いま  
すが」と、学習のねらいや具体的な進め方を説  
明することって大事よね。  
A: そうそう。事前に学習のねらいを説明してもらえ  
ると、担任の先生に気になることを伝えることも  
できるし、授業の後の子どもの変化にも早く気づ  
いて対応できるもの。  
B: 教材を選ぶときには、どのように感じるかという  
ことも考えて、いやな思いをしたり、傷ついてし  
まうことにならないようにしないとね。  
C: 教材は、子どもがいろいろ気づき、自分で考えを  
もつことができるもので、学習の後で自分の生活  
にいかせるものがないよね。  
A: そうね。それが、生きた学習のかな。話は変わ  
るけど、十年以上前、子どもが低学年のころのこ  
となんだけど、灰谷健次郎の「ろくべえまつてろ  
よ」の授業参観があったのよ。男の子と女の子の  
役割とか登場人物が固定的な見方で書かれている  
ところがあって、ちよつと気になったの。先生は、

どう感じておられるのかな、子どもたちにどう伝  
えられるのかなと思っただけで、結局  
そのところには、触れられなかったの。国語の  
授業だから、仕方がないのかなと思っただけど…  
B: 国語の授業、人権の授業って分けるのではなくて、  
全部の授業の中に人権の視点を入れていくような  
意識が必要っていうことよね。いつもそういう意  
識を持って子どもにかかわってもらえたらいいな。  
C: ええ、そうね。授業は毎日のことだからね。  
A: 家庭でも、固定的な見方ではなく、いっしょに考  
えていくようにしたいよね。  
B: そうよ。子どもって、周りにいる大人の言葉遣い  
や態度などから学んでいくのよ。私たちも、気を  
つけなくちゃ。

あなたは、この会話を読んでどう思いましたか。

編集委員 守婦朋子、辻みゆき

「人権教育基本方針(改訂版)」では、「家庭・  
地域と連携して人権教育をすすめます」と記し  
ています。授業のねらいを達成し、すべての子  
どもが安心して学校生活を送るために、日ごろ  
から、保護者や子どもへの思いや願いを十分つか  
んでいくことが大切です。

人権擁護委員：人権擁護委員は、法務大臣から委嘱され、  
地域に根ざした人権擁護活動を行っている民間の方々で  
す。

### 人権教育推進会議情報誌 『はじける ところ』

発行 箕面市人権教育推進会議  
箕面市教育委員会  
人権教育課 TEL 072-724-6921 FAX 072-724-6010  
e-mail: edujinken@maple.city.minoh.lg.jp  
平成22年(2010年)3月  
人権教育推進会議委員

平沢安政、谷川守保、河野秀忠、蒲隆夫、安東由紀子、辻みゆき、永尾通恵、姜信愛、守婦朋子、  
小関政子、平沢清美、山内美紀子、宮本智美、堤下利美、奥谷俊彦、竹綱珠衣、平林和男

「はじけるところ」は教職員・PTA運営委員に配布しています。また公共施設にもおいています。  
公開ホームページ: <http://www2.city.minoh.osaka.jp/EDUJINKEN/JINKEN/jinkenhtml>

# 南小学校の支援教育

## 「あゆむついで」

南小学校では、「人権尊重の精神を基盤に教育を推進する」という基本的な考え方のもと、友だちなど人との出会いの中で、子どもたちの豊かな人権感覚を育てています。

南小学校の支援教育は、「ともに学びともに育つ」ことをめざしています。障害のある子どもがそれぞれの学年・学級とともに学び生活する中で子ども同士の理解を深めています。また、学校生活や学習活動の中で困難を感じている子どもや支援を必要としている子どもへの支援については、内容・方法・支援体制を支援教育校内委員会にて検討してすすめています。その一貫として、「ともにあゆむついで」があります。

「ともにあゆむついで」は、障害のある人もない人もともに集い、障害について考える機会として実施しています。今年で22年目となる伝統ある取り組みです。一昨年度までは、ゲストを迎え低学年向けと高学年向けの2回に分けてお話をしていたのですが、昨年度からは、各学年の実態に合わせた取り組みを学年ごとに実施しています。身近な友だちのこと

を知り合い、身近な人に出会って、障害について考えます。今年度の「ともにあゆむついで」を紹介します。

### ……ともにあゆむついで……

1年 ともだちだいすき  
ともだちのいいところをいっぱいみつこう

友だちのよいところを見つけたら、見つけてもらったりすることで、友だちのよき、受け入れられることの喜びを知っていきます。一人ひとりが違っているから素晴らしいことに気づく機会になりました。

### 2年 手と指で話そう

手話通訳や手話指導をしてもらえる手話サークル「EJ」の方々、あいさつや簡単な会話などの手話も教えていただきながら、お話を聞き、楽しい出会いをしました。

### 3年 リング オブ フレンド

障害をもった友だちのいつもの様子や気持ちを紙芝居を通して考えました。今回の取り組みを通して友だちのことをより深く理解し合える機会になりました。

### 4年 レッツボランティア

聴覚障害のある方からお話を聞き、自分の生活と同じところと違うところがあること、「障害は不便ではあるが、かわいそうではない」ことを知りました。そのあと手話サークル「EJ」の方々にあいさつやものの名前の手話を教えていただき楽しい時間を持ちました。

### 5年 87人87色ななかまたち

5年生87人、みんなちがってみんないい！人それぞれのハードルやその乗り越え方の違いを知り、みんなが自分らしく生きるためにはどうしたらいいか考えました。4年生で学んだことをさらに深めました。



### 6年 もう一つのオリンピック

#### パラリンピック

「車いすバスケットを体験しよう」車いすバスケット選手を招き、試合を見たり実際に車いすに乗る体験をしたり、選手のみなさんが車いすバスケットを始めるときにかけなどの話を聞いたり可能なことを教えることの大切さを教えていただきました。



5年生の「87人87色ななかまたち」を参観して

今回、5年生の「87人87色ななかまたち」の取り組みを参観しました。具体的にペットボトルを使ったり、言葉絵に表す作業をしたりして、子ども自身が障害の疑似体験をしながら障害について考えるというものでした。

講師の木下さんの授業は、5年生の子どもたちにもよく理解できるように、「障害」とは？「自閉症」とは？という大切な基本概念を、パワーポイントによる図やスライド、実験と称した参加型体験など具体例をうまく盛り込んで、大変理解しやすいものでした。そして、障害を持っていることがどのように困ることなのか、またそれをどのように支援することができるのかと、問題を理解した後の行動までも喚起する、心のこもった話運びと、親としての真摯な愛情に感動しました。

#### 人権教育推進会議委員 平沢清美

私の息子は、自閉症の障害があります。授業参加させていただき、今までも息子にどのような工夫をしてやれば、本人がわかりやすくなおかつ周りも楽であるかという事を考え続けてきたつもりでしたが、その重要性を再認識したような気がします。人権教育推進会議委員 辻みゆき

## 多文化共生教育

### 「ちがいを豊かに」

#### ■外国にルーツをもつ子どもの保護者の願い

豊川南小学校には、20名を超える外国にルーツを持つ子ども達が通っていて、全校で多文化共生教育に取り組んでいます。また、日本語指導が必要な子どものために日本語教室の教員が配置されています。

今回は、豊川南小学校に通っている外国にルーツを持つ子ども達の保護者のミズブイ・マリヤムさん、鮫島メーリさん、笹川コブさん、サンドバル・エルサさんの四人の方に集まっていただいて、学校生活についてお話をうかがいました。

日本の学校に通うことが、

学習内容も難しい。漢字など大変なんです。覚えやすいように工夫して教えてもらって感謝しています。子どもも覚えるのが楽しいと言っています。保護者用に、学校の学年だよりや保健関係のプリントを英訳していただいています。おかげさまで。

「お話をうかがいますか？」

私は日本語を話せませんが、日本の学校は経験していないので、日本の学校のシステムがわかりません。しかし、教えてもらって、だいぶ分かってきました。子どもは、給食と掃除に慣れさせていました。母国では、学校で給食も掃除もありませんでした。

「お話をうかがいますか？」

・参観日があつてよかったです。子どもはよく分かります。母国ではありません。豊川南小学校では、この学年も外国の文化に触れる授業をその学年に在籍する児童の母国を中心に行っているけれど、この学年では何をやるというプログラムになったらいいと思います。帰国児童・生徒のサポートもお願いしたい。違う文化の中で生活している、見た目は同じだけれど、違うところがあるの、サポートをお願いしたいと思えます。



外国にルーツを持つ子どもたちもに学校・地域で生活する中で、お互いの文化や習慣のちがいを認め合い、豊かな人間関係をつくっていく。多文化共生教育をすすめていくことの大切さを改めて思う座談会になりました。

#### ■一年の授業参観を通して

今回、一年生が、いろいろな国のあいさつや遊び方をとおして仲良くなれることを知ることなどを目標に、ゲストティーチャーとして、鮫島メーリさん、笹川コブさんを招いてアメリカ・エチオピア・タイのあいさつや遊びなどを教えていただきました。子どもたちは、興味を持って話を聞いたり、楽しそうにそれぞれの国のじゃんけんを教えるもらっていました。



#### 授業を参観して

写真、歌、シヤンケンなどを通じて異文化を学ぶことができ、一年生も文化の違いを楽しんでいたようです。最初のいい出会いが、異文化に対して肯定的なイメージを持ち続けることに役立つのではないかと感じました。

人権教育推進会議委員 守婦朋子

20年以上の年月を経て、小学生の時から会へ参加していた子どもが成長して自身が親の立場になるなど、子育て世代は2・3世から3・4世の時代になり、在日の意識も

発足当時は、子ども達に自国の文化に触れ、同胞に出会う機会を作りたいという思いから、キャンプや料理教室、チャレンジ体験などの活動をしていました。長い活動の中では在日だけでなく、先生方をはじめ多くの方々の協力のもと、10周年、20周年とさまざまなイベントにも取り組まれました。

# トッキの会

「箕面市人権教育推進会議」は、「人権教育基本方針（改訂版）」に基づき具体的な施策が効果的に推進されているかどうかや、今後の課題などを検討するために、幅広く市民・教職員から構成される箕面市の人権教育の応援団です。構成メンバーである「トッキの会」と「ライフタイムミント」を紹介します。

より多様化しています。現在では、月例会や冬のキムチ作り講習会など、情報や伝統的な風習を共有する保護者会としてだけでなく、まつりやイベントでの出店で韓国料理を紹介したり、毎年の人権フォーラムへの参加、小・中学校での異文化体験授業のお手伝いなどの活動をしています。特に学校での活動は、偏見を持たず、素直な目で朝鮮・韓国、在日と触れ合う子ども達の楽しそうな姿に、出会いの大切さを痛感します。多くの人が良い形で在日と出会い、また在日も臆することなく生き生きと暮らせる社会が広がるよう願っています。



# ライフタイム

## トメント

みなさん、こんにちは！ライフタイムミントです。

私たちは箕面市、豊能町、能勢町において、障害児、者やそのご家族等への相談支援を中心として、障害児、者が地域で自立して暮らしていくための取り組みをしています。ライフタイムミントには障害をもつスタッフがおり、障害者としての経験、知識をいかして相談（ピアカウンセリング）に応じたいるのも特徴です。各種情報提供、福祉サービスの利用援助、その方の権利が侵害されている場合には権利を守る活動など、他の支援機関と連携をしながら行っています。また、住まいの確保や入居後の生活に不安をもつ障害者への支援も行います。相談窓口という身構えてしまいそうですが、相談事、悩み事、どんなこ

ともまずはお話をじっくり伺うことから始めます。語り合うことで気持ちが楽になることもありますよね。ぜひお気軽にご利用ください。訪問相談も行っています。相談は無料です。

また、相談支援以外にも自立生活プログラム（将来の生活や必要となる支援についてみんなで考えたり、体験したりします）、福祉制度等の学習会の開催、パソコンクラブ、障害者と健全者で共に創るサークル活動への協力など、障害児、者や関係者がパワーアップできる活動を幅広く行っています。

NPO法人 箕面市障害者の生活と労働推進協議会 ライフタイムミント  
箕面4-8-30 電話720-6806 FAX720-6808  
メールmintlife@big.or.jp ホームページhttp://www19.big.or.jp/~mintlife/index.shtml  
業務時間：月～土曜日（日・祝・年末年始を除く）10:00～18:00

## 箕面市立なが幼稚園

### 「異年齢交流を通して見えてきたもの」

なが幼稚園では、遊びや生活体験を通して心のふれあいを大切に、ともに育つ豊かな人間関係作りに努めることを重点にして、人権尊重の教育を進めています。その中でも今年度は特に異年齢(年少児(4歳児)と年長児(5歳児))の交流を意識しながら保育を進めています。ここではこれまでの異年齢交流の様子をお知らせします。

#### 4月 対面式・5月 子どもの日のつどい

はじめまして！これから仲良くしようね！と年長児から年少児へ手作りペンダントのプレゼント。ロンドン橋をしましたが、お互いまだまだ緊張していました。5月にもう一度ふれあい遊びなどをしました。年長児は少し自覚ができた様子で、優しく声をかける姿も見られました。年少児はまだまだ緊張していました。



#### 9月 プールおさめ

年長児の得意技の発表を、年少児が見に来てくれました。年少さんが見ているから頑張ろう！年長さんってすごいな！お互いにいろいろな気持ちを感じたようです。



#### 10月 運動会

運動会の異年齢競技ではグループを決めました。今後のよい関係につながれば、という願いから小学校区も意識して構成しました。兄弟クラスやグループ、ペアを決めたことで、安心感があり、より関係が深まってきました。同じグループで園外保育や芋掘り等にでかけたり、生活発表会では兄弟クラスで園歌を歌ったりしました。



#### 飼育当番(うさぎ)

うさぎ小屋の掃除やえさ作り(野菜切り)をします。ほうきの持ち方や包丁の使い方等、年長児から年少児へ伝えます。3月からは飼育当番を年長児から年少児へバトンタッチします。



#### 食育活動を通して

カレー会やとうふだんごやさんなど、さまざまな食育活動を異年齢で行っています。その中のひとつですが、年少1クラスと年長1クラスでおにぎり作りをしました。教師に言われなくても年長児が自然と年少児のごはんを先によそう姿や「具は何にする？」など自分から声をかける姿が見られました。思ったより大きくなったり小さくなったり……。子ども達にとってはちょうど良い量をよそうことが難しいことなんだと気付かされました。自分達で作ったおにぎりの味は格別だったようで、「美味しいね！」とペアの友達と一緒にうれしそうにほうばっていました。



作ったおにぎりを持って、中小学校の校庭へ遊びに行きました。広い校庭を目の前にすると、走りだしてむずむずした子ども達。走ってもよいことを伝えると、思い切り走り出しました。全身をしっかりと動かして走る姿に驚きました。少し緊張気味だった年少児も年長児のリードのもと、思い切り走る事ができてよかったと思います。のほり樟やうんてい等、幼稚園にはない遊具でもたくさん遊ばせてもらいました。しっかりと体を動かしたので、おなががべこべこになりました。



異年齢での活動を繰り返すことで、異年齢の友達が身近に感じられるようになり、年長児は年少児に対する思いやりの気持ち、年少児は年長児に対して憧れの気持ちをもち、安心できる関係になっているように思います。幼稚園でのつながりが小学校に行っても活かされるといいなと願っています。

# ズイちゃんが笑った

かわの ひでた

ボクは、ひとりっ子なんだよ。ホント、おとうとか、いもうとがほしいんだけどね。母さんに、いもうとか、おとうとがほしいよって、いつもたのむんだけど、母さんは、笑(わら)うばかり。ムリなんかなあ…。

ボクんちは、母さん、父さん、ボクと、ズイちゃんの四人ぐらし。ボクが大スキだったバアちゃんは、ボクが一〇才のときに死んじゃった。それから、ずう〜と四人でくらして。ボクが大スキだったバアちゃんには、ボクが一〇才のときに死んでもいいけど、ズイちゃんのことをはなすね。ボクんちじゃ、ズイちゃんのことを、「むっつりズイちゃん」って、アダ名をつけてる。ホント、話はするんだけど、ズイちゃん、ゼ〜ツタイ笑わないんだもの。ふつうのズイちゃんなんだよ。ボクのことば、なんでもしてくれるんだよ。でも、笑わないんだ。どうしてなんかなあ、フシギだよ。それとね、まつりとか記念(きねん)のなんとかのおいおいとかにも、出かけないんだ。ボクが行こうよってさそっても、行かないって。そして、そんなときは、ヘルパーさんをたのむんだ。ヘンなの。

それともうひとつ、ズイちゃんのヘンなクセ。母さんと父さんは、しごとで、朝がはやいんだ。ボクは、ねぼうだから、朝はおそい。そんな朝、ズイちゃんは、毎日、おぶつだんを長い間、おがんでる。どうしてかわからないんだけど、ボクんちには、おぶつだんがふたつあってね。そのふたつともね。なんで、ふたつもおがむんだらうか。

ボクは、中学校を卒業(そつぎよう)して、勉強は、あんまりスキじゃないけど、それなりにペンキョーして、この春に、やっとこさ高校生(こうこうせい)になった。

※その入学式にさあ。ズイちゃんがついて行くっていうんだ。おいわいの式(しき)だよ。ホントにボク、ビックリしたあ。式の日にはピーカンで、とつてもあたたかくて、みんなニコニコしてる。サクラなみきから、花びらがゆきのようにふってる。そのなかを、ボクと、ボクの車イスをおして、ズイちゃんは、ゆっくり、ゆっくり、あるいた。ズイちゃんが、ボクのかおをのぞきこんで、「いい日だな。いい入学式になるな。」

「いつものズイちゃんらしくないかおをするんだ。ズイちゃんは、サクラの木を見上げて、ポツンとつぶやいた。

「ちるサクラ、のこるサクラも、ちるサクラってかあ。」

「ちるサクラ、のこるサクラも、ちるサクラってかあ。」

その夜、ボクんちじゃあ。ボクが高校生になって「よかったねパーティ」をひらいた。母さんがケーキをかってきて、父さんは、ビールをしたまかかってきた。ズイちゃんも、夕方からいろいろ用意(ようい)なんかしてさあ。ボクは、な〜んにもしないよ。

夜になると、リビングのところに、四人そろってね。テレビもけして、

「高校生、おめでとー！カンパニー！」

をした。ボクと母さんは、ケーキをほおぼり、父さんとズイちゃんは、ビールのあわを口のまわりに、いっぱいつけてね。

しばらくすると、いつもは、そんなことはないのに、ズイちゃんが、かおをまつ赤にして、おおきな声で笑ったんだ。ボクも、母さんも、父さんも、ポカンとした。だって、むっつりズイちゃんが、笑ったんだよ。そして、ズイちゃんは、へろへろとしゃべりはじめたんだ。

「ワシが笑わないから、むっつりズイちゃんって、アダ名をつけてたろう。しってたぞ。ワシは、笑わなかったんじゃなくて、笑えなかっただけなんだ。ワシはなあ、先の戦争(せんそう)に行つて、たくさんのかまや、外国のひとが死ぬのを見てきた。みんな死ぬのがイヤだったろうに、つながってきた「いのち」を、ブツンと切られて死んだ。もつと、もつと、つながっていたかったろうに。それを見てきたから、生きのこったワシは、どうするんだというも自分に聞いていたんだよ。だから、自分だけがしあわせになつてはいけない。楽しく笑つてはいけない。おいわいのところには行かないと、決めていたんだ。そして、「いのち」のつながりを切られたひとたちのために、毎朝おがむんだ。まあ、ワシのためにおがんでいたのかもしれないがな。

でもな、今日、トシ(ボクの名まえ)の入学式に行つて、わかったんだ。たくさん死んだひとたちと、ワシはつながっていると。そして、トシの父さん、母さんにつながつて、しつかり、トシにつながったんだと…。」

そこまでいうと、オーツ、オーツとデツカイ声で、ズイちゃんは、ボクをだきしめて、泣いた。ズイちゃんは、笑いながら泣いていた。母さんも、父さんも泣いていた。ボクもなんだかこころがザワザワして、なみだがでた。

こうして、ボクは、高校生になった。そして、ボクは、ひとりじゃないってことがわかった。ボクは、たくさんひとたちとつながって生きているんだって。でも、ケーキをたべすぎて、むねがヤケちゃって、ムカムカしたよお。

みんなで話し合うヒント

●あなたには、おジイさん、おバアさんがいますか。どんな、おバアさん、おジイさんですか。

●なぜ、ズイちゃんは、笑わなかったのかな。「先の戦争」とは、いつのことなのか。

●あなたは、どのようなひとたちとつながっているのでしょうか。自分だけがしあわせになったら、なぜ、いけないのでしょうか。

●ズイちゃんは、なぜ、おぶつだんをおがむのでしょうか。

●トシは、どんな「障害」があるのでしょうか。

●ズイちゃんは、どうして泣いたのかな。先生と一緒(いっしょ)に、考えましよう。

※ ピーカン…晴天の意味(天気が良い日)

